

A man with glasses and a dark jacket is shown in a field of green wheat. He is leaning forward, carefully examining a wheat plant with both hands. The field is vast and green, with some yellowing plants visible in the distance. The sky is bright and clear.

JA職員として培った知識はありましたが、実際に作業に携わってみると、思い通りにいかないことも多く、その難しさを痛感しました。

特に、農業機械の操作は就農前に経験がなかったため、とても苦戦しました。農業には明確な正解がない場面も多く、勘や経験が重要になることも少なくありません。丁寧に作業すれば必ず成果につながるわけではなく、就農当時は作業のコツをつかむまで時間がかかりました。それでも父の助言を受ければながら経験を重ねることで、少しずつ農業に慣れていきました。

さらに、農家を継いだ中学時代の友人をはじめ、近隣の農家の方々が惜しみなく情報を共有してくださったことも、就農したばかりの私にとって大きな支えとなりました。

どんな些細な作業でも手を抜かず、丁寧に取り組むことを心掛けています。JA職員時代に環境整備の重要性を学んだことから、畔や農道の除草、排水路の清掃などをできる限りこまめに行うようにしています。

限られた労働力と現在の農地規模のなかで、持続可能な農業経営を行うことが目標です。現在は省力化を目指し、水稲の無代かき栽培の導入を検討しています。また、妻が「やってみたい」と話しているカボチャなどの園芸作物の栽培にも、将来的に取り組みたいと考ええています。

両親が引退した後も、夫婦2人で安定した経営を維持できるよう、これからもつひとつの作業と誠実に向き合います。堅実な農業経営を目指していきます。



美唄市字大富

く　ど　う

ひ さ や

工藤

寿也

さん(46歳)

妻のさやかさん、父の修一さん、母の梅子さんの家族4人で約11haの農地に水稲や小麦を栽培。大学卒業後はJAカレッジを経て空知管内のJAに就職し、営農指導関係の部署で約15年間勤務。その後、「自分も農業に携わりたい」という想いが強まり、40歳で農業の道に進みました。

現在は丁寧な管理作業で収量や品質の向上に努め、充実した農業生活を送っています。